

佐藤しんや議会報告 第4号(令和8年新春発行)

発行責任者 伊達市議員 佐藤眞也
伊達市梁川町二野袋字庭渡154-1(自宅)
TEL) 090-1892415645
FAX) 024-157716558
[MAIL] all/sato12@heart.ocn.ne.jp

いあつわつ



新春を迎え、みなさまにおかれましては、益々ご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。また、みなさまには日頃大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

さて、早いもので、多くの皆様、先輩知人友人の皆様へ、ご支援ご指導を賜りながら議員活動を務めてまいりました。衷心より厚く感謝申し上げますとともに、これからも市民のみなさまの目線に立ち市民のみなさまの思いを代弁し、市政発展のため、信念をもって活動をする覚悟です。

伊達市では多くの難題を抱えております。佐藤眞也はこの4年間、①「梁川バイオマス」の問題、②「伊達市の財政の問題」、③「地域の振興」、④「農業の振興」、等々を重点に活動をしてまいりました。課題解決とまではなかなか行きませんが、課題を洗い出し、執行部に対して対策等を求めてまいります。また明るい話題、夢と希望の持てる施策も提案しております。本誌ではこれらを中心に特集

を組んでおります。

議会の会派について、令和7年3月から、新しい会派「未来政策研究会」を半沢隆議員(代表)、大竹重範議員、佐藤眞也の三人で立ち上げました。「未来政策研究会」は伊達市の未来のために、一歩踏み込んで政策の研究と実現を目指すために佐藤眞也が名付けました。また総務生活常任委員会と議会運営委員会に所属しております。

地域のことは、なんでもお気軽にご連絡ください。スピード感をもって誠心誠意対応させていただきます。今後とも、ご指導ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年、佐藤しんやの議会での一般質問

令和7年3月定例会

- 1 梁川バイオマス発電の問題
- 2 伊達市の財政健全化
- 3 市の農業振興(草刈ロボットで環境整備)
- 4 イオンモールのオープンと伊達市の振興(イオンモールは3千人の雇用の予定)
- 5 中山間地の過疎化対策(「過疎債」と国の「地方創生伴走制度」)

令和7年6月定例会

- 1 梁川バイオマス発電の問題
- 2 伊達市の治水計画(市民と協働で新たな治水計画を)
- 3 伊達市の歴史とまちづくり(歴史的維持向上計画を策定し国の認定を)
- 4 伊達市内の外国人(伊達市のキュウリ生産の24%は外国人)

令和7年9月定例会

- 1 梁川バイオマス発電の問題
 - 2 旧梁川高校(市民にもっと丁寧な説明を)
 - 3 伊達市の農業の振興、人手不足対策
- ### 令和7年12月定例会
- 1 梁川バイオマス発電の問題

- 2 伊達市の財政の健全化
 - 3 伊達市の農業の振興
 - 4 伊達市の歴史とまちづくり
- 以上、このような質問しました。

特集1「梁川バイオマス問題」



梁川バイオマスの本格操業について、令和6年5月の予定が令和8年春以降になるとの市当局から報告がありました。まる2年間仮運転のままです。説明会もなく、

市とログ社の協定書(本格操業になったら施工する条件で契約)も施工されず、また燃料サンプリングの提示もありません。何を燃やしているかわからない発電所など今時ありません。すでに様々な問題が発生しております。毎日見える煤煙の詳細データの報告はまだない。排水の水質汚濁防止法の事故(基準値を超える酸性の排水)。燃料とされる廃プラのゴミの飛散などです。県が指導に入っています。佐藤眞也はこの問題を定例議会でも毎回(15回)質問し市長の答弁を求めております。



令和7年12月議会にて

(佐藤眞也) 会津(大規模風力発電計画)の町村長と同じく、伊達市はバイオマス発電所の近くに幼稚園や小学校があり、反対しても法的な効力はないが、子供たちの安心安全かの観点から、「受け入れられない」と明言することは、住民に寄り添った市の姿勢ではないでしょうか。市長にお伺いします。

(市長) 市民または周辺の皆様が非常に不安になっていることは大変認識しております。この事態をしっかりと解決をしていかなければならないと認識しております。そのためには、事業者との協定にもとづき、市、県や国と連携して、できる限り市民が不安にならないような事業、発電がされるよう、監視していく体制が必要と考えます。

令和7年11月に発電所に最も近い住民一人から呼び出しがあり、お話を聞きました。「今でも時々家の敷地に廃プラのゴミが飛んでくる、妻はときどき焦げたような臭いがすると言っている、最近では精神的に不安で夜眠れなくなってきた」と語っていました。

近隣住民の切実な訴えです。佐藤眞也は議員になる2年前の令和2年から6年間「梁川地域の暮らしと命を守る会」の皆さんとともに、先頭に立って梁川バイオマスの問題に取り組んでおります。残念ながら思うような成果が出ておりませんが、この問題に対しては伊達市の環境と市民の健康を守るため、強い気持ちで徹底して取り組む覚悟であります。多くの皆さんとともに取り組む必要があります。市民の皆様のご協力を今後ともよろしくお願いたします。

先日、市当局とも打ち合わせをしております。

す。当局も事業者と市民の板挟みになって、また当局の活動が市民になかなか届かず、ご苦労されているようです。今後は大学の先生などの、また県環境部にも相談しながら、技術的・科学的な視点で活動したいと考えております。

特集2「伊達市の財政健全化の問題」

■伊達市の財政の問題

昨年、市長を本部長として財政構造改革推進本部を立ち上げ令和7年から3年間財政の抜本的改革を図るとして財政構造改革プログラムを策定、6年度比マイナス21億円の超緊縮予算を組みました。

■財政調整基金とは

一般家庭の預金のようなもので、枯渇した場合、災害対応などできなくなり、民間金融機関から借りるしかりません。国県からの支援の手立てやしきみはありません。

◇令和7年12月議会にて

7年度補正予算が膨らみ財政調整基金を14億円繰り入れた場合、8年度は4億円に減り、9年度の予算編成が難しくなる。

◇経常収支比率は一般的に80%を超えると危険ゾーンとされるが伊達市は令和6年度が97.5%で自由度がなくなり、たとえば財政の動脈硬化のようなもの。

◇(市長) 現在、財政調整基金に頼らざる負えない予算編成で、大幅な財源不足になり、財政運営が非常に厳しい状況になっている。歳入に見合った収支均衡型の財政構造を目指している。

特集3「伊達市のスマート農業とF-REI」

F-REIは福島国際研究教育機構の通称で国策により、世界に冠たる創造的復興の拠点を目指すもので、現在浪江町に広大な研究都市



の建設が始まっております。令和7年11月に視察に参加し、ロボット分野の研究の紹介で廃炉ロボットの説明があり、技術転用で桃の収穫ロボットへの応用研究が始まるうとします。桃の収穫はデリケートな作業で、色、糖度、熟度などを測定し桃を傷めないよう枝から引き抜く難しい作業になります。

説明の講師に對して、「伊達市内の桃畑を桃収穫ロボットの試験フィールドに提供できません」と手を挙げて発言しました。そのあと伊達市定例議会でもこの話を説明し、積極的にアプローチしない」と最前線の事業はつかめないことも話しました。実現できれば伊達市の市民に夢を与え、伊達市の知名度アップになります。費用もほとんどかかりません。



実現するために今後も取り組みます。行政の重い腰を上げさせるためにも、支援の輪が広まることを願っております。

特集4「伊達市の歴史とまちづくり」

伊達市の歴史とまちづくりについて市当局に二つの提案をしました。一つは、市民の提案から、歴史まちづくり

法に基づき歴史的維持向上計画を策定し、国から認定を受けたのは県内で会津若松市、桑折町、国見町など7町村ありますが。伊達市はまだ入っていません。歴史まちづくり法は文科省、農水省、国交省にまたがり認定を申請するもので、文化財の保護や景観規定、各種事業を市街地を含めた一体的に計画的に進めるものです。市当局はまだ研究段階にあるようですが、伊達市の百年後を見据えて計画し国に申請することを望みます。

二つ目は、国の「歴史的風致形成建造物保存整備事業補助金(補助率1/2)」を使って伊達市内の大きな



屋根の養蚕家屋の整備保存についてです。私たちはいつも見ている気が付きませんが、大きな屋根の養蚕家屋は、かつて全国屈指の養蚕で栄えた伊達地方の歴史的建造物です。今保存修復しないと間に合いません。将来の観光資源にもなります。

福島大学のインターン生の受け入れと自治会との懇談会

令和4年から毎年、大学の夏休み春休みを利用した福島大学のインターン生を私の果樹園で受け入れております。今年は8名でした。インターンの100時間のうち議会の傍



聴が約半分、私の果樹園での桃とシャインマスカットの収穫体験と選別箱詰め作業が約半分です。冬はイチゴ農家で作業も始めました。写真はそうそう。またりょうぜん道の駅や先進農家の視察、地元自治会との懇談会も行ってあります。懇談会では昭和生まれの自治会役員と令和の大学生とが向き合っている。今の若者は紙の活字ではなく、スマ

ホなどSNSで情報の収集やり取りをしており、自治会の紙の広報だけでは若者には伝わらないなどの意見が出ました。福島大学のインターン生が毎年伊達市内に入り農業体験をするようになりまして。今後インターン生を通じて若者目線から伊達市の魅力、足りないところなどを探っていくと考えるとあります。また地域でインターン生を受け入れ出るよう、興味のある農家、研修先を募集します。

